

第五回定例総会は出席者 33 名 (ZOOM での参加を含) で成立。
有効投票数 33 票で提案議案は満場一致で可決いたしました。

2022 年度の抱負 代表理事 小川 茂

<アーカイブの最終形を描きながら、その受け入れ先を探していきます!>

昨年 8 月の総会で代表理事に選任され、あっという間に 1 年が過ぎました。

理事会運営をよりスムーズにまた活発に行う為、会員や理事会の運営を支える事務局と 6 部会を設置しました。写真貸し出しの依頼に対応する法務、ニューズペーパーやお知らせ便を編集・発行する広報、ホームページをリニューアルしたシステム運用部、今年が勝負の美術館セクション、デジタルアーカイブに向けたデータベースワーキンググループは、今度データの統一的な管理・運用が求められています。

今年の課題は、美術館セクションを軸にアーカイブの受け入れ先を探す事です。美術館などは、プリントの納入を求めています。探しながらのデータ・プリント・資料等の納入方法の検討も課題です。

作業チームは、チーム長崎、足尾・谷中、キャンペーン及び斗争、広島・基町、北海道 101、公害、大阪撮影、筑豊、そして今年度から「われわれの写真」(1978 年発行) も加わり 9 チームとなりました。

昨年度の大きな出来事は、広島・基町チームの現地広島での写真展「1976-1978 基町」の開催でした。半世紀前全日が撮影した基町の写真が、今を生きる広島の人々に多くの感動を与えました。その事は、全日の写真が持つ力を世に示し、そして全日の写真をこの世に残そうとしている AAJPS、私達に大きな勇気を与えてくれました。

私達のアーカイブ活動は終盤を迎えています。今年は 9 つの作業チームがそれぞれに最終形を描き、そこへの道筋を作ろうとしています。どのように終わりたいか、どうすれば終われるのか、最終形を描いて進まない限り、いつまでたっても終わりません。そのため年内、12 月中に最終形を描きたいと考えています。

年明けて 2023 年は、最終形に向けて寄り道せず、最短の道を突き進んでいきます。

今年は、理事会とチーム連絡会議、各部会議を順次 20 日置きに開催し、チーム連絡会議は 2 ケ月に 1 度開催します。各チームが進めている事業を確認・検証し、その先をより具体的に見いだせるように短いスパンで展開し、積み重ねていきたいと考えています。

アーカイブ進捗状況 ('22/6/11-8/10)

長崎チーム

長崎のベタチェックは終盤を迎えています。前月は少し滞りましたが、今月 4 次長崎最後のベタ、小川・山本・福室をアップします。残り不明が約 90 本ありますが、それで全て終了します。

一方 2 次・4 次長崎のベタチェックしたコマを取集し、1 枚のベタに 9 点まとめて掲載し 2 次セレを行なっています。前月で木内、小川、緒方は終了し、当月は西垣+北条+前田、広飯+西村+田中、西村+村川+猪塚+吉田を行いました。8 月から河野+宮部、矢野、そして 4 次に入ります。今後 2 次・4 次長崎の 2 次セレした写真、並び 1 次・3 次長崎のセレクト写真も、サイボウズにアップしメンバーで再度見直して、もう一絞りするか、キャビネプリントにまわすか判断したいと考えています。

キャンペーン及び斗争写真チーム

1969 年 4 月の沖縄闘争・ASPAC 斗争・6.15 などネガ 121 本をデータ化しました。

大阪撮影・北海道 101・広島・基町チーム
進捗はありません。

足尾・谷中チーム

横井直樹さん (71 年、立教) から 1972 年 12 月撮影 14 本、1973 年 2 月撮影 16 本分のデータが届きました。

その中から 71 枚を 2L 版にプリントしました。今後、この中からさらにセレクトしていく予定です。



各部会報告 ('22/6/11-8/10)

システム運用部会

進捗無し

データベースワーキンググループ

進捗無し

広報部

再版を進めていた冊子が完成し、お知らせ便などをお送りしている方々に配布いたしました。また金子隆一氏一周忌に合わせた追悼展の会場

に冊子を置かせていただき、多くの方に見ていただきました。

法務部

AAJPSの窓口としてHPに公開しているメールアドレスへ8月7日、広島市在住の田中和雄氏から「基町写真展」の写真を見せてほしいとの要望が寄せられた。

写真を発見する世界 写真史家・金子隆一の軌跡

昨年6月30日に逝去された金子隆一氏を追悼する展覧会がMEMにおいて6月28日から7月31日まで開かれました。日本写真史に先鞭をつけた金子氏の軌道を紹介するものでした。

限られた紙面ではありますがその軌跡を紹介します。



「写真の散歩道」での講演
2017年名古屋 撮影北條正明

金子隆一氏の年譜

1967年 19歳 立正大学文学部地理学科入学、明治大学で行われた講師福島辰夫による新入生の講座を受ける。その時にウィリアム・クライン、ロバート・フランク、リチャード・アヴェドン、東松照明、細江英公、奈良原一高等の写真を見せられ圧倒的なものを感じる。

日蓮宗の信行道場を修了。住職の資格を得る。

1968年 20歳 ウィリアム・クラインの『Life is Good & Good for You in New York』を購入。初めて買った海外の写真集。同じ年に細江英公の『おとこと女』、森山大道の『にっぽん劇場写真帖』購入、写真関連書籍を収集し始める。

1969年 21歳 北海道101ロケハン隊、第一期夏、第二期冬の撮影隊、公害キャンペーンに参加

1976年 28歳 若い写真家たちのネットワークをつくり記録することを目的とした「写真集国」という東松照明の事務所を拠点に始まった活動に参加。

1979年 31歳 谷口雅、島尾伸三、築地仁と共に自分たちが認めた若い写真家の写真集をシリーズでつくる目的で『camera works tokyo』を刊行し始める

1981年 33歳 東京総合写真専門学校非常勤講師に就任
1985年 37歳 「つくば写真美術館'85」の立ち上げに飯沢耕太郎、伊藤俊治、谷口雅、平木収、横江文憲と共に加わる。『日本写真全集』（全12巻小学館）の出版に加わり日本各地の戦前の写真家を調査、その発掘に尽力する。ここで発掘された写真がその後東京都写真美術館の企画展と作品収蔵につながっていく。

1988年 40歳 東京都庁に写真美術館開館のための部署が置かれ、そこで開館準備と作品収蔵に従事する。

1995年 47歳 東京都写真美術館総合開館。2015年まで同美術館専門調査員を務め多くの展覧会企画を手がける。

2001年 53歳 武蔵野美術大学芸術文化学科非常勤講師就任。

2021年 73歳 『日本は写真集の国である』を出版。

2022年第22回日本写真芸術学会賞功績賞受賞

(写真史家・金子隆一の軌跡 金子隆一年譜より)



写真撮影：金子隆一氏
(北海道101より)



TOPIC

田中和雄さんの依頼について

AAJPSのホームページへの問い合わせを受けて広島・基町チームが田中和雄さんの対応にあたりました。田中和雄さんは基町に住んでおられて15歳ごろ自宅に学生の方が来られて、両親、祖父の方などを撮影されていたのを覚えていらっしやいました。また撮影してもらった当時のモノクロの写真も何点かお持ちだそうです。「1976-1978 基町」の写真展を見のがしてしまったので、その写真をご覧になりたいという問い

合わせでした。また彼が知っている情報も提供したいということでした。早速「広島・基町写真展報告書」と「アンケート感想文」をお送りしました。その後田中さんから「アンケートも読ませていただき、この写真は引き継いでいかなければいけない貴重な資料だと思いました。」というお返事を頂きました。

※「広島・基町写真展報告書」と「アンケート感想文」はサイボウズのファイル管理、広島・基町の中にあります。

'65～'79までの全日・491のアーカイブ作りは着々と進んでいます。お手持ちのネガや資料の情報をお知らせください。

お問い合わせ等：277-0053 柏市酒井根 2-20-11 東 闊 hig811@gmail.com